

(3)平成30年度「びわ湖の日」の取組について



7月1日「びわ湖の日」

「琵琶湖をきれいにしよう」、「豊かな琵琶湖を取り戻そう」、「琵琶湖にもっと関わろう」の3つの呼びかけにより、環境保全への理解と認識を深め、保全活動への参加意欲を高める。

一段高めるための展開

「琵琶湖にもっと関わろう」の視点から

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、より多くの方に琵琶湖に関わっていただけるよう、**7月1日「びわ湖の日」を起点に概ね8月11日「山の日」まで**を琵琶湖に関わる重点期間とし、「この夏！びわ活！」をキャッチフレーズに、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験イベント、活動、場所等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信。

暮らしと湖の関わり再生

《「びわ活」の展開》

びわ湖の日 (7/1) 海の日 (7/16) 水の日 (8/1) 山の日 (8/11)

琵琶湖で「つながる」

- 「びわ活」発表会・交流会(6/26)
- 琵琶湖でつながる3館めぐりスタンプラリー(7/1-8/31)

琵琶湖に関わる多様な取組を推進

琵琶湖で「楽しむ」

- 琵琶湖探索ツアー(7/16)

琵琶湖に「いざなう」

- この夏！びわ活！ガイドブック発行(6/22)
- びわ活ポータルサイト開設(6/22)

県内の取組を一体的・効果的に情報発信

琵琶湖を「学ぶ」

- びわ湖の日連続講座(7/8, 7/22, 8/25)

森、川、里、湖のつながりを意識した展開

琵琶湖を「広める」

- びわ活フェスティバル(7/1)
- Instagram「#びわ活」写真投稿企画(7/1-8/11)
- ラジオ、テレビ、鉄道車両中吊り等での発信

琵琶湖で「つながる」

- マザーレイクフォーラムびわコミ会議(8/26)



「びわ活」発表会



「この夏！びわ活！ガイドブック」



琵琶湖探索ツアー
地引き網漁体験



JR西日本関西一円
鉄道車両中吊り3日間

ガイドブックには、「びわ湖の日」学習に加えて、多様な主体が行う**びわ活にいざなう工夫**（食べる、親しむ、学ぶ）、**体験の機会、環境ボランティア情報**等を掲載し、**親子世代**に発信（17万部発行 小・中学校中心に配布）

「びわ湖の日」の取組について

1 これまでの「びわ湖の日」の取組状況について

びわ湖の日は、その概ね前後1週間に県下全域で10万人以上が環境美化活動を行うなど、琵琶湖への思いをみんなで共有し、その総合保全に取り組む象徴的な日となっている。

「琵琶湖をきれいにする」に加えて、「豊かな琵琶湖を取り戻す」、「琵琶湖にもっと関わる」をびわ湖の日の取組の3本柱とし、市町をはじめ民間企業・大学等と連携した取組を進めている。

【主な取組】

琵琶湖をきれいにしよう

- ▶ びわ湖を美しくする運動

豊かな琵琶湖を取り戻そう

- ▶ 侵略的外来水生植物の駆除
- ▶ 外来魚駆除釣り大会

琵琶湖にもっと関わろう

- ▶ 琵琶湖の価値やびわ湖の日の意義を発信『広める』
- ▶ 身近なこと『食べる』から琵琶湖に関心をもつ企画
- ▶ 琵琶湖や暮らしとの関わりを『学ぶ』企画

2 平成30年度「びわ湖の日」のさらなる展開について

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、より多くの方に琵琶湖に関わっていただけるよう、7月1日「びわ湖の日」を起点に概ね8月11日「山の日」までを琵琶湖に関わる重点期間とし、「この夏！びわ活！」をキャッチフレーズに、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験イベント、活動、場所等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信をする。

(補足)「びわ活」とは「びわ湖の日」(7月1日)から山の日(8月11日)までを重点期間とした、びわ湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わるさまざまな取組や活動をいう。

(1) 琵琶湖に「いざなう」「知る」

○情報誌「この夏！びわ活！ガイドブック」の発行 17万部発行

- ・県内小中学校(約13.8万部)に配付するほか、図書館、県・市町公的施設、琵琶湖博物館、大型商業施設、ローソン(一部店舗)で配架。
- ・びわ湖の日の学習に使える情報や、体験イベント、湖魚料理のレシピ、クーポン、寄附付き商品、ボランティア情報等を掲載。

感想等：一般県民の方 琵琶湖をもっと大切にしたい。/今年家族でびわ活をしようと思う。

掲載団体 参加申込につながった。/参加者の地域が広がった。 等

(2) 琵琶湖で「つながる」

○「びわ活」発表会・交流会の開催（6月26日 計68名参加）

- ・発表会では、県および大学2校（成安造形、立命館）、企業3社（セブンイレブン、平和堂、琵琶湖汽船）と、びわこ豊穰の郷や国際ボランティア学生協会（IVUSA）等の6団体から、本年の取組を発表。
- ・交流会では、龍谷大学藤岡章子教授による講演「ソーシャル志向の価値共創マーケティング」の後、琵琶湖の価値や活動における課題等について意見交換。
感想等：これまでの垣根を越えた交流ができた。 等

(3) 琵琶湖を「広める」

○びわ活フェスティバルの開催（7月1日 約3,000名へ周知）

- ・びわ湖に関するクイズ等により、「びわ湖の日」や「びわ活」について周知。
 - ・アミンチュプロジェクトの「野洲のおっさん琵琶湖一周」のゴールイベントや、イオンモール草津10周年イベントと連携し実施。
- ※民間イベントと連携したこと、ラジオ・テレビによる告知ができたことにより多くの方に参加いただけた。
- 感想等：この夏に琵琶湖で何かしてみたいと思った。/飲み水をありがとう。/
大好きな琵琶湖が、ずっときれいであると良いなと思う。 等

○多様なメディア発信

《ラジオ》

- ・e-radio びわ活 10秒CM 6月11日～8月10日
びわ活参加団体(40団体程度)のPRCMを適宜オンエア。
- ・e-radio びわ活応援 week 6月25日～6月29日
「この夏、あなたのびわ活教えてください」のテーマでメッセージを募集
レポーターが5日間、びわ活の取組等をインタビュー形式で紹介(11か所)。

《テレビ》

- ・びわ湖放送での「びわ活」PRCM 6月25日～7月1日 14回
同内容をYouTubeでも配信 6月25日～8月11日

《鉄道》

- ・JR西日本鉄道での車両吊り広告 6月29日～7月1日 3日間
京阪神エリアで掲出。2,250車両

○人と湖の関わり等写真の投稿呼びかけ、企画展示（応募作品等 70点）

- ・7月1日～8月11日の間、「びわ活」写真（琵琶湖との関わりなど）を「#びわ活」をつけてInstagramへの投稿いただくよう呼びかけた。
- ・優秀作品を10月1～8日にビバシティ彦根で展示。11月25～30日にはここ滋賀で展示予定。

(4) 琵琶湖に「学ぶ」「楽しむ」

○琵琶湖探索ツアー（7月16日 60名参加 対象：県内外の学生および保護者）

- ・湖上体験、沖島で地引網漁体験・湖魚メニューの昼食、西の湖巡りなど、滋賀ならではの価値や魅力を感じるツアーを実施。ツアーの満足度：96%

・船上や昼食時に琵琶湖の現状や課題を伝え、自分で何ができるか考えていただいた。

※定員 60 名に対し 400 名以上の応募あり。ラジオでの周知による効果。

感想等：初めての体験ができると思って参加した。/琵琶湖の清掃や外来魚駆除に参加したい。今後も湖魚を食べてみたい。/滋賀の豊かな自然を守ろうと思った。/カヌーやビワイチに挑戦してみたい。等

○立命館大学との連携「びわ湖の日連続講座」 (3回 310名参加)

・「琵琶湖と人の様々な関わり」を統一テーマに連続講座を開催し、琵琶湖と私たちのつながり、琵琶湖とともに生きていくために何ができるかを考える。

第1回 7/8 「江戸時代の琵琶湖を知る－古文書から探る琵琶湖の魅力－」

第2回 7/22 「琵琶湖保全からエコツーリズムを考える」

第3回 8/25 「琵琶湖の魚を守ることと活かすこと」

※立命館大学の広報により、定員を超える応募があった。

感想等：琵琶湖1周に挑戦したい。/清掃活動に参加しようと思った。/外来種の駆除活動に参加したい。等

(5) 下流域との連携

○琵琶湖でつながる3館めぐりスタンプラリー 7月1日～8月31日

・琵琶湖疏水記念館での「びわ湖の日」特別展示に加え、琵琶湖疏水通船の復活を契機に、琵琶湖疏水記念館、大津市歴史博物館、琵琶湖博物館が連携し、人と湖(水)の関わりや人と人が交流する中で生まれた文化など、より多くの人に多様な琵琶湖の価値や琵琶湖への関心・理解を深めることを目的にスタンプラリーを実施。

○吹田市立少年自然の家との連携

・吹田市内の小学5年生が自然体験をするための宿泊施設
・図書コーナーで「琵琶湖ハンドブック」・「びわ湖を学ぼう」の閲覧できる。

○私立東山中学校(京都市) (10月～12月 3回予定 約200名)

・内容は、琵琶湖や水源・森林の価値、琵琶湖と外来魚(琵琶湖博物館見学・実習含む)、世界農業遺産とゆりかご水田(ゆりかご水田米試食あり)

※びわ活ガイドブックを全生徒・教員へ配布 約530部配布

○私立清風南海高校(大阪府高石市)

・SGH(文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール)の1年生対象
・出前講座5月22日75名、県内フィールドワーク(高島市内)8月1日20名

○龍谷大学との連携「びわ湖の日滋賀県提携龍谷講座 in 大阪」12月～3月

・琵琶湖と人との関わりをテーマに講座開催 梅田校 各回50名 4回予定

○「びわ湖の日」の周知・発信

(再)JR西日本鉄道での車両吊り広告 6月29日～7月1日 3日間

中日本高速道路管内SA・PAで「びわ湖の日」啓発ポスターを電子掲示

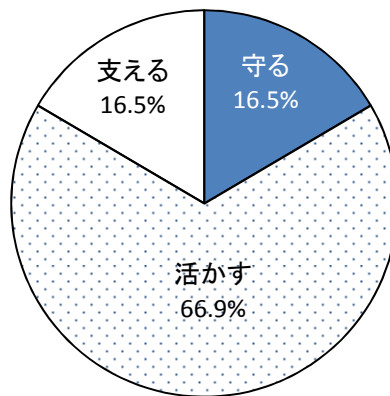
「この夏！びわ活！ガイドブック」への掲載情報について

ガイドブック掲載情報数	148	団体数	122
うち、クーポン・寄附商品	27を除く		
イベント・企画等情報数	121（母数とする）		

1. 「守る」「活かす」「支える」別割合

	情報数
守る	20
活かす	81
支える	20

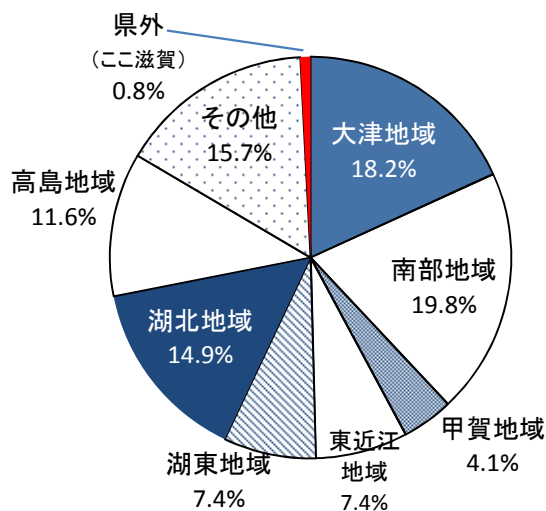
琵琶湖へのいざないの契機となる観点から情報を収集したこともあり、「活かす」の割合が6割以上となっている。



2. イベント・企画の実施地域別割合

地域	情報数
大津地域	22
南部地域	24
甲賀地域	5
東近江地域	9
湖東地域	9
湖北地域	18
高島地域	14
その他	19
県外(ここ滋賀)	1

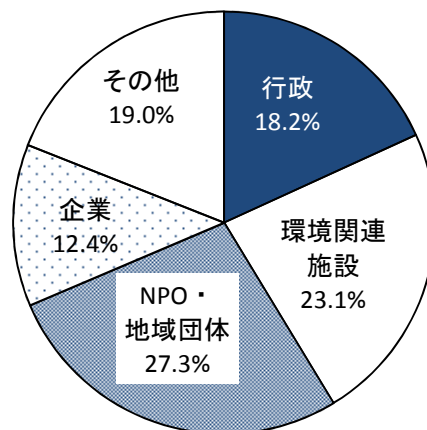
琵琶湖から距離のある甲賀や、森林の割合が大きい東近江、湖東からは情報数が少なく、「森と湖のつながり」についての更なる発信が必要。



3. 実施主体別割合

実施主体	情報数
行政	22
環境関連施設	28
NPO・地域団体	33
企業	15
その他	23

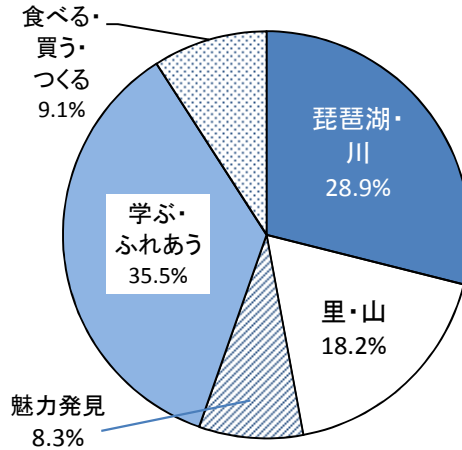
「その他」は、公益法人や実行委員会等。多様な主体によって、事業が展開されている。



4. 内容分類別割合

内容分類	情報数
琵琶湖・川	35
里・山	22
魅力発見	10
学ぶ・ふれあう	43
食べる・買う・つくる	11

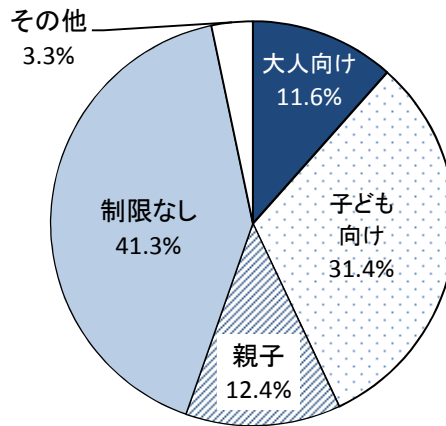
「琵琶湖・川」を舞台としたものや、「学ぶ・ふれあう」を切り口としたものが多い。
 利用者が各イベント・企画等の趣旨を理解しやすいよう、主催者の申請に基づいて、いづれかに分類を行ったもの。



5. 対象別割合

対象	情報数
大人向け	14
子ども向け	38
親子	15
制限なし	50
その他	4

子ども向けを中心に、多様な年齢層が参加できる事業が実施されている。



6. 定員規模別割合

規模	情報数
50名未満	53
50名以上100名未満	8
100名以上	5
定員の制限なし	44
不明	11

体験型の事業が多いことから、「50名未満」の事業が4割以上を占めているものと推測される。

